



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「上村KC牧師」

四月十一日に敬愛するハワイ在住の引退牧師、上村KC和男先生が召されていった。享年七十八歳であった。もう体が衰弱しきってしまい、がんも併発している。最後はホスピスケアとなり、7年間の人工透析が外された。それは外すと普通は2週間で死んで行く。だが、それから彼は二十八日間も生き続けた。その間、奥様の功子夫人が先生を人工透析のために週三回病院にお連れし、看護し続けてきたのだったが、ついに天に凱旋して行かれた。お子もなく、ただ一人、地上に残されたご夫人の上に、天父の豊かな慰めを心から祈りたい。

上村先生ご夫妻とは僕がサンタクララに居た時からお付き合いだから、かれこれ四十年にもなる。その時にはまだKC先生は信徒で、すでに聖書学院を卒業されていた功子夫人が教会の聖書クラスを担当していた。ある日のイザヤ書三十一章からのメッセージは、今でもしっかりと僕の心に残っている。KC先生はIBMを引退後に東京聖書学院に入学し、卒業後は、パルシテイ・ハイランド教会でご奉仕にあたっていた。先生は柔和という言葉がぴったりの人で、朴訥そのものであった。それが牧会に反映され多くの人望を得ていた。

召される三日前から、KC先生はもう生き続けることは出来ないと思感したように、意識朦朧とする中で、不安げに、やせ細く衰えた右手を天空に伸ばし、何かを掴もうとする仕草をするようになった。実はその手は今までほとんど動かさない手でもあった。妻として、今日の前で不安に慄いている愛する夫を、どう励ましたら良いか思い巡らしていた時、一つ感じるものがあつた。それは彼のメッセージに悔い改めが少ないことを日頃感じていたこともあり、彼に、「KC、罪の告白は出来ているの？ そうでなかったら天国へ入れないのよ」と語り始めたのであつた。そして「彼らを最後まで愛し通された」(ヨハネ十三・1)とのみ言葉に始まり、心に浮かんでくる主の救いのみ言葉を丹念に語り続けたのであつた。そのように悔い改めを迫る中で、やがて彼の顔は次第に不安から平安に変えられ、彼本来の柔和な顔に戻つたのだつた。それまでの不安げな右手は、彼を招いておられる主への力強い信仰の応答に変わったのだつた。

マルコ伝に、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(一・15)とある。それは主イエスご自身の開口一番の叫びだつた。信仰生活とは悔い改めに始まり、悔い改めに終わるのが信仰者の歩みなのである。KC先生の手は天国の希望を確信させるものであり、救いの確かさを実感させるものであつた。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

